

全電源喪失の記憶

証言 福島第一原発

ア版

14年(平成26年)5月29日(木曜日)

■ 第3章「制御不能」

「消防車の操作方法を教えてください」。福島第一原発免震重要棟で、東京電力の注水担当者が陸上自衛隊郡山駐屯地の消防班長佐藤智2等陸曹(44)に言った。佐藤智は1号機原子炉に海水注入するため消防車3台を連結して、戻ってきたばかりだった。佐藤智は休む間もなく、再び現場に出て行った。「『またか』とは思いましたよ。でも口に出せないじゃないですか」。東電は、それまで消防車を操作していた子会社の南明興産が現場に入を出すことに難色を示しているのを見て、ようやく「自分たちでやるこ

消防車残し陸自撤収

「何で連れて行つた



東京電力福島第1原発事故で、大熊町などから避難した人々=2011年3月13日、田村市文化センター

かない」と思い至ったのだ。

佐藤智が現場に出ている間に、免震棟で陸自消防班の指揮を執る渡辺をしていなかった。

秀勝陸曹長(46)に東電の担当者が告げた。「自衛隊さん、ありがとうございます」と渡辺が答えた。もう帰りたいとい

た際、母親の携帯電話に連絡した。「大丈夫です。何もありませ

んか気になっていたのだ。渡辺は答えた。親ならそ

母は弁当店のすぐ近くの体育館に置いていくことになった。3月12日午後1時ごろ、郡山駐屯地消防班は第1原発を出発した。

渡辺が言う。「隊員たちはもうぐつたりしていました。放射線の恐

ろしさなんてみんな分からなくて『体に影響ないでじょうか』と

聞いてくる隊員もいました。早くここから出たい、と思いましたね、実際」

国道288号通り原発から約50キロの田村市周辺まで来ると、開いてるのはそれだけだった。

母親は弁当を受け取ると、近くの弁当店があつた。隊員たちは1日に駐屯地を出てからほとんど食事にいた指揮官の渡辺に向かって言つた。「何でうちの子を連れて行つたんですか。体は大丈夫なんですか」

佐藤勇二陸士長(22)は弁当店に寄つた際、母親の携帯電話に連絡した。「大丈夫です。何もありませ

んか気になっていたのだ。渡辺は答えた。親ならそ

う言いたくなるだろう、と思う。渡辺たちは、母親の携帯電話に連絡した。「自分らが第1原発で作業した内

1時だったが『今からそっちに行こ』と言つたが、どうなくして弟とともにや

も自分らが最初に活動していなかつたら、どうなつていたのか、とは今でも思います」。渡辺は任務をそ

「大丈夫か」、「大丈夫だ。かあちゃんこそ、ちゃんと飯食ってるか。寒くなえか」は当時、共同通信 繁原雄也)